

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和4年 6月 28日

静岡県知事

川勝 平太 殿

提出者 〒546-0041

住 所 大阪市東住吉区桑津3-28-1

氏 名 三和電子サーキット(株)

代表取締役 伊藤和也

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 06-4301-1531

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	三和電子サーキット株式会社 東海工場
事業場の所在地	静岡県磐田市海老塚793-1
計画期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	電子部品・デバイス製造業
② 事業の規模	28.6億円（令和3年度売上高）
③ 従業員数	196人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙-1のとおり

（日本産業規格 A列4番）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

- (管理体制図)
 ・別紙-2のとおり

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙-3のとおり	
	排出量	別紙-3のとおり t	t
	(これまでに実施した取組) ・生産に合わせた更新量の見直し・廃液システム更なる見直しを行い、発生量の監視及び削減を継続実施中 ・廃棄物の有価化推進を継続実施中		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙-4のとおり	
	排出量	別紙-4のとおり t	t
	(今後実施する予定の取組) ・顧客品質要求の高まりにより管理精度向上による廃棄物量UP傾向 品質向上によるトータル削減を推進中 ・生産効率改善による削減推進 ・洗浄方法見直し・監視等による廃液量の削減推進		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・廃プラスチック・廃油・無機性汚泥・廃酸・廃アルカリはそれぞれに分別、保管をしている。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・有価化可能な廃棄物を調査し、有価化を推進し廃棄物の削減をはかる

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和2年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	-	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	- t	t
	(これまでに実施した取組) ・実施していない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	-	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	- t	t
	(今後実施する予定の取組) ・予定なし		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和2年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	無機汚泥	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	t
(これまでに実施した取組) ・予定なし			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	無機汚泥	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	t
(今後実施する予定の取組) ・予定なし			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和2年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	-	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	-	t
	(これまでに実施した取組) ・実施していない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	-	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	-	t
	(今後実施する予定の取組) ・実施予定無し		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ・汚泥	廃プラスチック ・廃油・木屑
	全処理委託量	3,059.6 t	106.4 t
	優良認定処理業者への処理委託量	1,878.2 t	106.4 t
	再生利用業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) ・廃棄物の分別精度を上げ有価化推進及び廃物削減を実施 ・日々廃液量計測し、過剰な廃液の抑制・異常の早期対策を実施 ・委託基準を遵守できる産廃処理業者を選定		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙-4のとおり	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>・生産品目・要求品質の変化により廃棄物が増加傾向より顕著にある。廃棄物の再生利用化等への検討を更に推進していきます。 今年度受注減による発生量の現状が考えられ、生産による発生比率削減を目標にし活動を推進する。</p>		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物の一連の処理の工程

(主要原材料)

(製造工程)

(発生産業廃棄物)

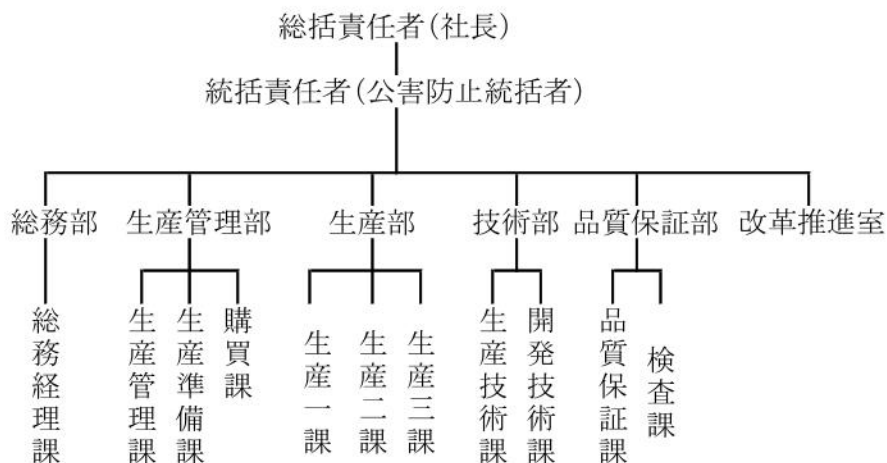
(処理・処分)

委託処理部分を示す。



産業廃棄物の処理に係る管理体制及び各部署役割

(1) 管理組織図〔東海工場〕



(2) 責任者

総括責任者	伊藤和也
統括責任者	神谷俊光
産業廃棄物管理責任者	鈴木 誠
特別管理産業廃棄物管理責任者	山田雄介
廃棄物担当	総務経理課 係長 生産技術課 課長
	山下敬之 高須貴久

(3) 廃棄物に関する責務

- ①総括責任者 廃棄物に関する総括的な把握を行なう。
廃棄物処理に関する各種事項の決定、承認等、
- ②統括責任者 総括責任者を補佐し廃棄物処理に関する事項を把握・監視し統括的な管理を行う。
- ③廃棄物管理担当 (総務経理課, 生産技術課)
廃棄物処理計画の作成
廃棄物管理状況の把握と改善策の検討
処理業者、再生利用業者の調査、選定及び管理
委託契約の締結
産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物管理票の交付・管理
監督官庁への各種報告
社員、関連会社に対する教育・啓発
その他関係する事項
- ④生産部 各発生工程の原材料の使用量把握、減量化の方策検討等、

令和3年度産業廃棄物実績報告書

		廃棄物の種類 (単位 t)						
		廃プラスチック類	廃油	廃アルカリ	廃アルカリ(有害)	汚泥	木くず	ガラスくず
前年度の産業廃棄物目標		100	2.0	3,450	1.5	20.0	4.5	0
前 年 度 の 実 績	①産業廃棄物発生量	106.4	1.2	3,030.1	0	29.4	5.8	0
	②自己直接再生利用量	0	0	0	0	0	0	0
	③自己直接埋立処分又は海洋投入量	0	0	0	0	0	0	0
	④自己中間処理量	0	0	0	0	0	0	0
	⑤自己中間処理残さ量	0	0	0	0	0	0	0
	⑥自己中間処理後再生利用量	0	0	0	0	0	0	0
	⑦自己中間処理後自己埋立処分又は海洋投入量	0	0	0	0	0	0	0
	※ 優良認定処理業者への処理委託量	106.4	1.2	1,848.7	0	29.4	5.8	0
	⑧直接委託及び自己処分後委託処分量	106.4	1.2	3,030.1	0	29.4	5.8	0

令和4年度産業廃棄物処理計画書

		廃棄物の種類 (単位 t)						
		廃プラスチック類	廃油	廃アルカリ	廃アルカリ(有害)	汚泥	木くず	ガラスくず
前年度の産業廃棄物発生量		106.4	1.2	3,030.1	0	29.4	5.8	0.1
本 年 度 の 目 標	①産業廃棄物発生量	105	1.0	3,000	1.0	20.0	6.0	0
	②自己直接再生利用量	0	0	0	0	0	0	0
	③自己直接埋立処分又は海洋投入量	0	0	0	0	0	0	0
	④自己中間処理量	0	0	0	0	0	0	0
	⑤自己中間処理残さ量	0	0	0	0	0	0	0
	⑥自己中間処理後再生利用量	0	0	0	0	0	0	0
	⑦自己中間処理後自己埋立処分又は海洋投入量	0	0	0	0	0	0	0
	※ 優良認定処理業者への処理委託量	105	1.0	2,000	1.0	20.0	6.0	0
	⑧直接委託及び自己処分後委託処分量	105	1.0	3,000	1.0	20.0	6.0	0